

今シーズンの広葉樹原料の結果

広葉樹原木の生産は終わりました。4月以降に開催される広葉樹市には2月から3月に生産された材が出品されますが、最盛期【11月1日から2月28日・4か月間に生産された材】の材より量的に劣らなくても品質劣化は否めません。

又海外材はインポーターが最盛期に生産された材しか購入しないので、その期間に生産された材が順番に入荷されるだけになっています。

各産地の状況を解説します。

- ① 北海道材 2022年10月から檜材の高騰が目立ちます。12月の当麻町有林材・1月の東京大学・北海道大学演習林材・2月の北海道各所の民間材。この3回の市がメインイベントだったと思います。価格上昇幅は、特選原木の場合は昨シーズンに比較して50%以上の値上がりになったと思います。
- ② 東北材 北海道同様10月から価格上昇が始まりましたが、結果的に言えば東北材は昨シーズン材に比較しておよそ30%の価格上昇で収まったと思います。東北材の特徴が（長さが2200ミ以下の材が殆ど）北海道産より価格上昇が抑えられたと思います。
- ③ アメリカ材 弊社の契約は2022年12月に行いました。その契約内容の全てを公開できませんが、出来る範囲内で情報を開示します。昨年に続き今年も現地サプライヤーに100%任せました。【日本の他のインポーターは、写真もしくは動画で買い付けをしたと聞いています。】

服部商店が買い付けたボリュームゾーンはベニヤグレードの最高品質材に限りませんでした。特にブラックウォールナットはこの5年間買い付けた中で最高の原木が来たと思います。

ホワイトオーク原木に関しては、アメリカ国内のドメスティック材は比較的値上は少なかったと聞いていますが、伐採する方の人手不足・運送業者の人手不足等の状況で対海外向けのエクスポート材は全体の生産量が少ない為に単価は限りなく高騰して下がらない状況に陥っていると聞いています。

檜材の高騰で、国内産の檜材は北海道・東北の2大産地以外の、品質的にも良くない九州・中国・東海の材まで幅広く大手家具メーカーから買いが入っています。

所謂中間材の檜材とアメリカのレッドオーク材を比較すると、後者の方がコストパフォーマンスは有る様に思います。具体的に言えば住まいに使われる内装材は比較的長い材が必要です。3メートル上の材が必要な場合、供給が可能な産地は北海道とアメリカの2択しか有りません。その中でコストが2年間で倍になった北海道の檜材が高級物件しか使用できない状況になりつつあることを凄く危惧します。

I Rの効果を探る

I Rが2023年4月14日の政府連絡会議において大阪市・大阪府の提案していた統合型リゾートが認可されました。それを検証します。

- ① 東京オリンピック（2回）札幌オリンピック・万国博覧会との違いは恒常的に行われる施設である。日本国内ではオリエンタルランドが催している東京ディズニーランド・ディズニーシー・大阪のユニバーサルスタジオ以外に成功例がない。
- ② I R＝カジノと表現されていますが、**本来のカジノ**は外国人の富裕層を相手に合法的なギャンブルをして頂く施設であって、日本人の利用もあるが目的は海外の富裕層のおもてなしにあたる。
- ③ インフラ需要が期待出来る。建設業・不動産業・飲食業・運輸業等、あらゆる産業で新たな雇用が創出出来る。
- ④ 所得の比較的高い海外からの観光客様が来ることにより、大阪の立ち位置が相対的に上がる可能性がある。（東京一極集中の回避に繋がる可能性が有ると思います。）
- ⑤ 大阪エリアから関西エリアに経済効果が広がる、手段が増えると思います。
 - 1、過去の開発で所謂カジノを主催した経験がない日本人そのもののリスク（日本人は過去の例に重きを置くが新しい事をするのが多少苦手な有る）が無いのか。
 - 2、日本国全体の人口減少社会において新たな事をするので確実に人手不足は起きる。その時コンピューター等の機械に置き換えられる仕事とそうでない仕事があります。マンパワーに頼らざるを得ない職業について海外からの人を雇用する為の具体的な法整備の遅れ。
 - 3、今回の開発は民間主導です。しかし政府の援助（政策・税制）がないと成立しません。特に交通インフラの整備・ガス・水道・電気のインフラ需要に対応する方法（ドイツの様に脱原発か自然エネルギー重視なのか）が決まっています。将来に対する温暖化対策と需要増に対して供給余力の課題があると思います。
 - 4、1200兆円の財政悪化のなかで出来るだけ民間主体で開発をするのだから何らかのインセンティブが無いと成り立たないのか心配です。
 - 5、I Rにおいて明るい面だけではありません。当然暗い面も自然と出来てしまいます。その時恵まれない方の為の支援は如何にするのか。

以上大阪に生まれ育った大阪人の小生の分析です。経済全体のことを以下に書きます。

あらゆる産業において値段が恒常的に下がる事が30年継続しました。その点について考えます。何故価格低下が起こったのでしょうか。政府が言っていた需給ギャップと関係しています。供給が多すぎるのか需要が少ないのか議論しても仕方ないから、それは除いて進めます。安倍内閣の是非はともかく需給バランスを均等にする方法の一つとしてインバウンド需要に重きを置いた政策をとってきました。まずまず成功したと思います。（コロナ期間は除く）しかし需給ギャップ10兆円は埋めきれなかったと感じています。

日本には一般の観光客を呼ぶ手段は多く有ります。海外旅行をした方なら理解出来ます。日本には至る所に日本語・英語・中国語・韓国語の表示が有ります。こんな国は日本しか有りません。しかし日本には1泊100万円以上する宿泊施設は有りません。その方達が日本にきてくれて京都・奈良・和歌山の昔ながらの日本の伝統文化に接する機会を作れば10兆円と言われる需給ギャップは確実に埋まり、資本主義の理想的な循環（2%の緩やかな経済成長）に結び付くと思います。

2029年に開業する日程が決まりました。と言う事は2027年がおおよその納期だと想像できます。I Rに関しては消防法の関係で大量に使用されるのは突板だと思います。無垢材はごく一部だと聞いています。（以前の水面下の情報ではI R内にお寿司屋さんが出来るそうです。使用される木材は木曽檜になるのではないか。）

無垢材は家具を除くと極わずかだと思います。大量に使用される家具も大手メーカーの中で割り振られると考えています。しかし知りたいのは使われる樹種ですが、解らないので、プロの材木屋として大まかに5つに纏めました。

- * 景気の良い時は赤基調、景気の悪い時は白基調が当てはまるのか。
- * 天然木の突板が使われるのか、シートが主体になるのか。
- * 世界中で木材を含む天然資源の取り合いになっている状況での選択肢は少ない。
- * 国産材が昔の建築より多く使われる傾向は進むと思います。
- * 使用される木材は過去の大規模な開発と比較すると選択肢は限られています。

アメリカ材（ウォールナット・ホワイトオーク・ブラックチェリー・レッドオーク・ハードメープル）材が主体にならざるを得ないと思います。勿論和室では国内産のスギ・ヒノキだと思いますが、国内産広葉樹でI Rの需要を賄うのは不可能です。ヨーロッパ材も選択肢の一つですがウクライナの復興需要とのバランスが有り、アメリカ材が主体にならざるを得ないと思います。

小生は大阪府知事・大阪市長選挙で維新に投票しました。あくまでI Rありきではなく国民の安心安全を守るための政策だと信じました。

財政赤字1200兆円を抱える日本国では本当に選択肢は少ないと思います。下記の5項目が小生のI R事業に対しての思いです。我々のDNAに含まれている日本人の良い所である曖昧さは、相対的には賛成だが絶対的には反対と言う表現になっていますが、それでは生きていけない可能性が現実目の前に出現していると考えています。小生のI R事業に対する要望は以下です。

- ① 財政再建には国が成長する事は当たり前です。それに寄与して欲しい。
- ② ウクライナ危機同様、台湾危機の為に中国に対する外交手段として使って欲しい。
- ③ 真のデフレ脱却には起爆材が必要だと思います。その起爆材にして欲しい。
- ④ 世界中に誇れる日本国の創造に持って欲しい。
- ⑤ 直接関係しない方たちの為に儲けて税金を払って頂き国民全体に寄与して欲しい。

日本人として誇りを持てるI Rにして欲しいです。

I R大阪内定記念 ゴールデンウィークキャンペーン 2023年5月1日～5月31日

お得意先様向けのキャンペーン

毎週先着にて、30,000円以上（木材代金のみ・消費税・諸経費を除いて）御買い上げの5名様に、アマゾンギフト券5,000円を差し上げます。

新規のお客様限定のキャンペーンを実施

50,000円（木材代金のみ・消費税・諸経費を除いて）以上お買い上げの全員に、アマゾンギフト券10,000円を差し上げます。

